



一般社団法人**電気自動車普及協会**
Association for the Promotion of Electric Vehicles

【事業内容のご紹介】

2023年11月1日

理事 草加浩平

地球温暖化

化石燃料
資源の枯渇

人口爆発

様々な社会課題

「未来の子供たちのために、美しい地球を残したい」

電気自動車（BEV/PHV/FCV）の普及による環境改善を推進

- ① BEV/PHV/FCV関連の事業や研究、普及活動を行う事業者、研究機関、各種団体、自治体をネットワークでつなぐことによって情報の共有と連携の強化を支援
- ② 個々（ベンチャー・中小企業）で行われているEV事業の活動を支援
- ③ 新たな社会・産業のさらなる発展のためにEV/PHV/FCV戦略の実現化
- ④ 電気自動車を受け入れる社会の成熟のために、各地で取り組まれている電気自動車普及活動のサポートと政策提言及び政策の共有
- ⑤ 電気自動車社会を担う若者の育成

1. APEVについて <現状：会員数>



会員数は、312会員（2023年3月時点）

	2023年3月31日	前年比
正会員 (企業様)	92 社	+13 社入会 5社退会
特別会員 (自治体・大学等)	163 団体	+5団体入会 0退会
賛助会員 (個人)	56 人	+2人入会 -2人退会
合計	312 会員	+13会員

2022年入会 13企業様

DMG EVENTS ASIA PACIFIC PTE LTD
全日空モーターサービス株式会社
パイオニア株式会社
ユビ電株式会社
株式会社技研製作所
日本特殊陶業株式会社
プライムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社

キムラユニティー株式会社
合同会社 アドバンス
加賀アミューズメント株式会社
株式会社中部環境電工
みずほリース株式会社
株式会社フォーイン
※詳しくはHPをご覧ください。

1. APEVについて <運営体制>



- ・会 長 : 鈴木 正徳¹
- ・代表理事 : 田嶋 伸博²
- ・理 事 : 佐藤 員暢³, 鈴木 高宏⁴, 山下 敏男⁵, 草加 浩平⁶, 藤原 洋⁷, 山根 健⁸,
椎木 衛⁹, 上荒磯 祥彦¹⁰

(計10名) <https://www.apev.jp/aboutus/profile.html>

- ・名誉顧問 : 横川 浩
- ・監查理事 : 佐藤 祐作
- ・アドバイザー : 井原 慶子, 奥山 清行, 河口 洋一郎, 高橋 洋平, 館内 端, 村沢 義久

【事務局】

- ・事務局長 : 上荒磯 祥彦 (2023年7月より)
 - ・上席研究員 : 安嶋 言一郎
 - ・研究員 : 安嶋 浩
 - ・事務局 : 小堀 和代、佐野 茂樹
- * 主席研究員 : 唐鎌 圭彦
(EVニュース執筆・月20本程度)

1) ビジネスマッチング・EV普及環境整備

- EV/PHV/FCV導入普及に向けてお困りの会員様間のニーズをマッチングさせる
- 協会の中立的な立場を活かし、会員様に関連行政の紹介や、様々な政策提言も行う

例) EVコンバージョンサポート/会員企業様間での事業連携

地域と共生する超小型モビリティ勉強会

(国土交通省・経済産業省・環境省への政策提言)

2) e-モビリティミートアップ(年4回開催)

- ハイブリッド形式の研究会による情報共有と会員企業様との双方向交流
- 国内外展示会・セミナー等イベント（オンライン含む）：出展・参加し
情報を発信・収集、会員企業様と交流
- 教育機関/自治体様などへ講師派遣（オンライン含む）
- 会員企業様の技術的な困りごとに対するコンサルタント（別途契約）
- 会員企業様の情報発信サポート

1) EV普及環境整備として、フィールド（自治体）との情報連携

- 特別会員（地方自治体・大学・団体）の抱える、課題やテーマ活動のサポート

例) 東京都：島しょ、山間部でのEV普及活動

EV×未来社会創造ワークショップ（東京大学／栃木県／日光市／ベネッセ等）

福島県学生EVイベントサポート

2) 取材活動

EVユーザー企業取材・記事掲載（EV100参加企業様を中心に取材）

例) 高島屋様、イオンモール様、イケアジャパン様、ヤマト運輸様、東京センチュリー様、日本郵便様、

日の丸リムジン様、グリコチャネルクリエイイト様、アスクル様、東京電力様



2. APEV活動 ③新たな社会・産業の活性化（展示会・講演・後援）



Interop Tokyo 2022にAPEV藤原理事が登壇（2022年6月15～16日）

1)6月15日(水) 12:30-13:10 基調講演「モビリティ×インターネットが創る未来～MONET Technologies vs APEV対談～」

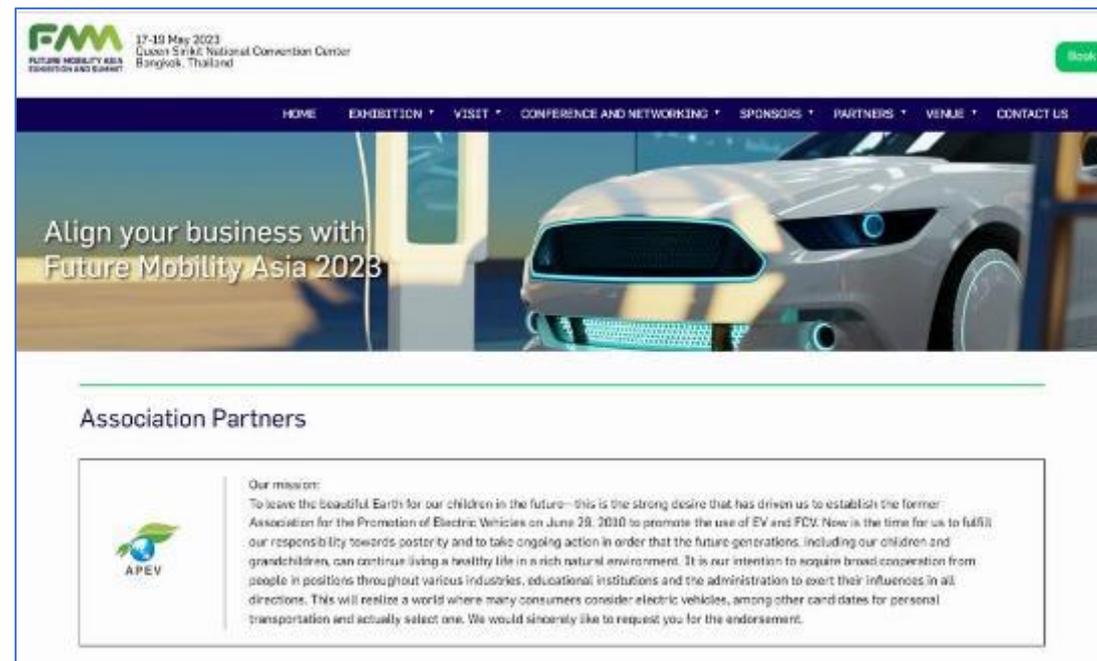
Speaker : MONET Technologies (株) 取締役 湧川 隆次 氏 + APEV 藤原 洋

2) 6月16日(木) 16:30-17:30基調講演「デジタル社会実現に向けて」

Speaker : デジタル大臣 牧島 かれん 氏 + 慶應義塾大学教授 村井 純 氏 + (株) ナノオプト・メディア 代表取締役 会長 藤原 洋

3) 6月15日(水) 10:30-11:10 展示会場内セミナー「デジタル田園都市国家構想応援団の取り組みー デジタルテクノロジーで地方を呼び起こす」

Speaker : (一社) デジタル田園都市国家構想応援団 代表理事 藤原 洋



Future Mobility Asiaを後援（2022年7月20日～22日）

タイ・エネルギー省の支援のもとタイ・バンコクで開催されるEVを始めとする新しいモビリティのショー&カンファレンス

2. APEV活動 ⑤電気自動車社会を担う若者の育成



APEV主催 国際学生“社会的EV”デザインコンテスト

CEATEC2022での最終審査&表彰式及びAPEVブース出展
2023年2月未来のクルマTechnology展での出展及びシンポジウムを開催。

目的：社会デザインとEVの可能性の研究を通して、次世代を担う融合型人材の育成

後援：環境省、経済産業省、国土交通省、公益社団法人自動車技術会、東京大学大学院情報学環、東京都、(社)日本自動車工業会

協賛：カーデザインアカデミー(ブランド名)、CCCMKホールディングス(株)、デル・テクノロジーズ(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、

日野自動車(株)、(株)ベネッセホールディングス、MONET Technologies(株)、(株)ワコム

審査委員：APEV 理事 藤原 洋、安藤 忠雄、井原 慶子、竹岡 圭、松本 博子、脇田 玲、田嶋 伸博

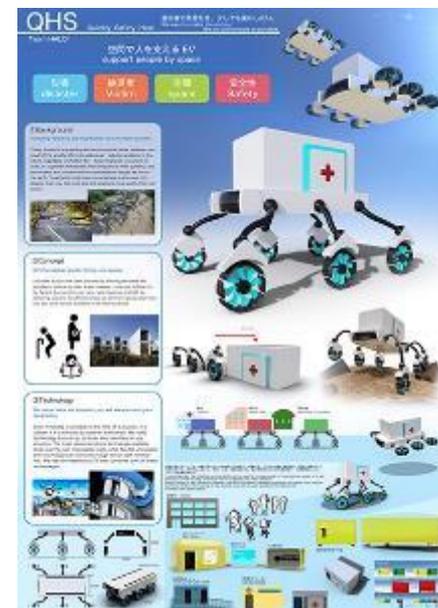
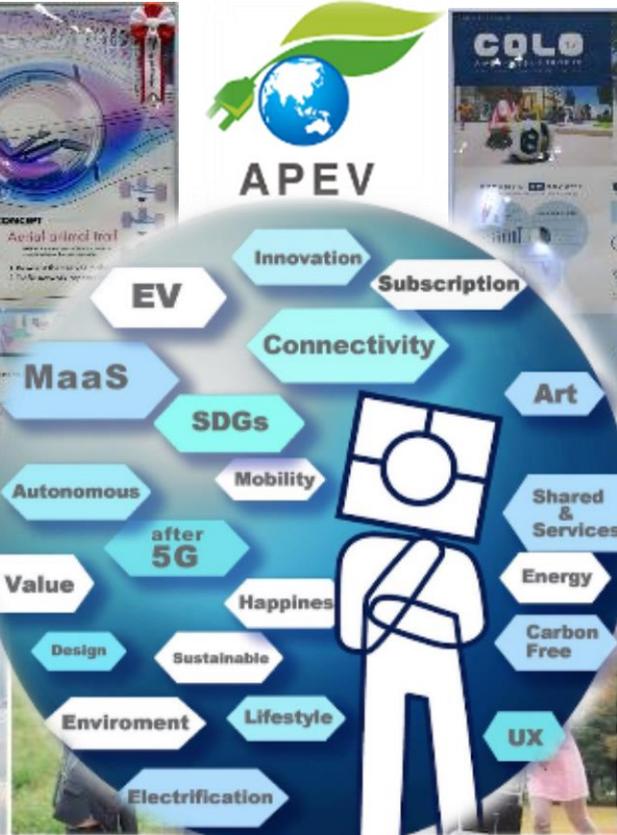
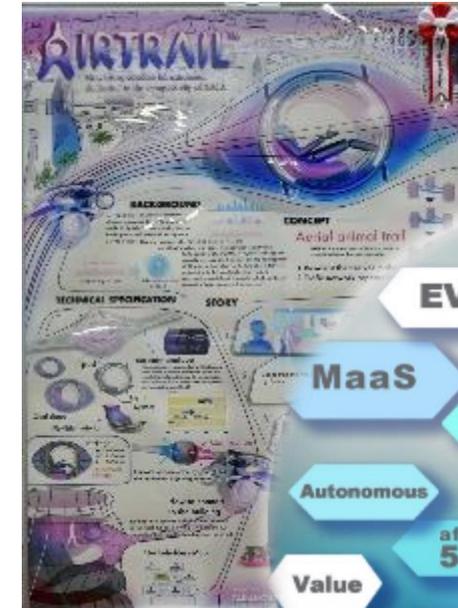
入賞チーム

賞名	学校名 / チーム名
最優秀賞グランプリ	東京都立大学 大学院/Sakai Mobility Systems
経済産業大臣賞	千葉大学&九州産業大学/TARAKO&PEANUTS
国土交通大臣賞	東京都立大学 大学院/TMU-torapo-B
環境大臣賞	HAL Tokyo/HALO!
審査委員特別賞	千葉工業大学 大学院/FLAT
審査委員特別賞	(India) National Institute of Design, Transportation and Automobile /Shunya
MONET Technologies賞	千葉工業大学 大学院/Costa
日本IBM賞	東京都立大学/MINK



新たな「人材」づくり

■ APEV主催 国際学生“社会的EV”デザインコンテストを開催



モビリティサービスを通じて
人々の暮らしをもっと豊かに



3. APEV活動 + モビリティへの対応



■クルマからモビリティへ

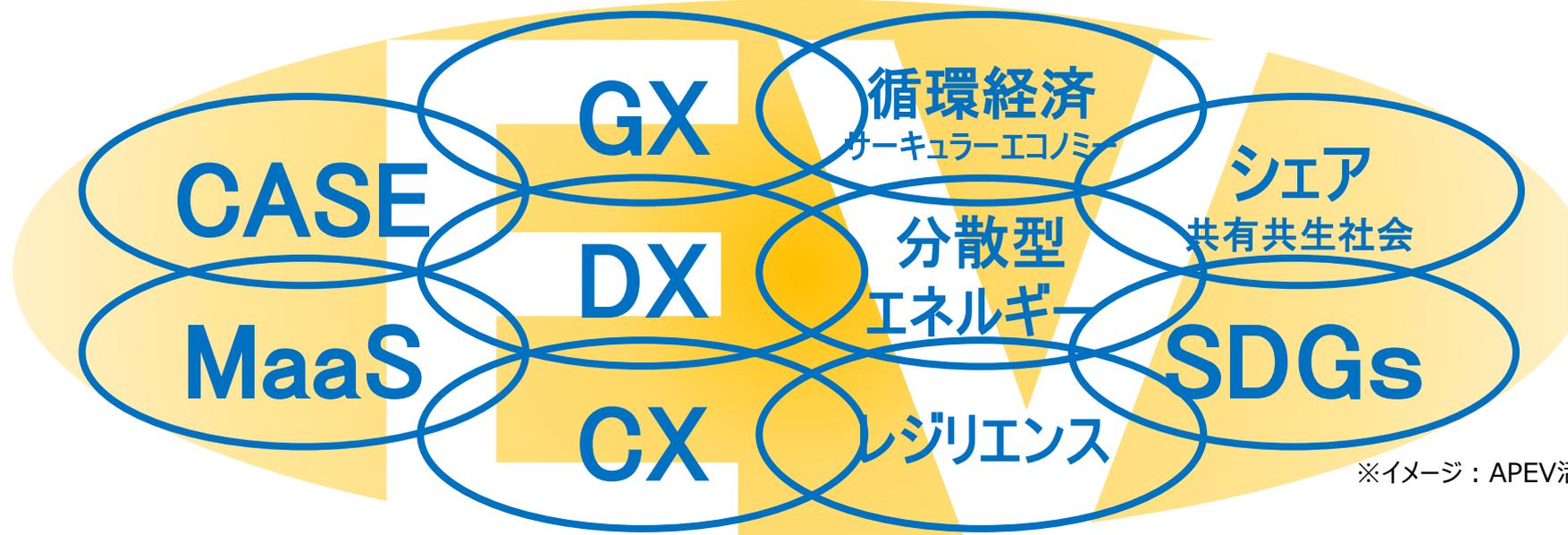
トヨタ自動車様が、2023年4月にモビリティカンパニーへのフルモデルチェンジを宣言

クルマづくり(モノづくり) ⇒ モビリティの提供(生活スタイルの提供)

EVは、電動化という環境技術の一つであり、社会環境変化に対応したビジネスモデル変換が必要

今現在“モビリティ事業”って何???

概念・定義が、まだ確立されておらず、新たな社会システムへの変革を進める必要がある



※イメージ：APEV活動範囲

APEVは、新たな「人材と基準」づくりでモビリティ事業をサポートします。

電気自動車（EV）の良さ・楽しさ



<要素>

<効果>

<メリット>

内燃機関（エンジン）でなくモーターで駆動

音が静かで振動が少ない

走行中排気ガスを出さない

加減速が滑らか

回生ブレーキでブレーキの消耗が少ない

オイル交換不要

ガソリン・軽油でなく電気がエネルギー源

運行コストが低い

ガソリンスタンドに行かなくて良い

大容量の蓄電池を搭載している

重心が低い

災害時にEVから給電できる

国や地方自治体の補助金がある

太陽光発電等のクリーン電力を貯められ、家庭の電力にも使える（V2H）

快適で疲れない

経済的

ガソリンスタンドの無い所で使える

走行安定性が高い

非常用電源になる

カーボンニュートラルに貢献

学生フォーミュラのEVマシン



0→100km/h加速1.461秒
で当時EV世界一になった
Stuttgart大学の
E0711-11 EVO(2022年9月)



<https://www.roadandtrack.com/news/a41573045/formula-student-ev-acceleration-record/> より

0→100km/h加速は
フォーミュラEが2.9秒、テスラモデルSは2.1秒
ガソリン車のブガッティヴェイロンが約2.5秒、
日産GTRが約2.7秒、2005年F1ルノーR25が1.9秒

0→100km/h加速**0.956秒**でEV世界一
になった ETH Zurich & Applied
Science and Arts のEV formula
(2023年9月)



<https://ethz.ch/en/news-and-events/eth-news/news/2023/09/from-zero-to-one-hundred-in-0-956-seconds.html> より